



うきうき つどもっくろ

季刊 第30号



2015年3月発行

【気管切開、喉頭気管分離について】

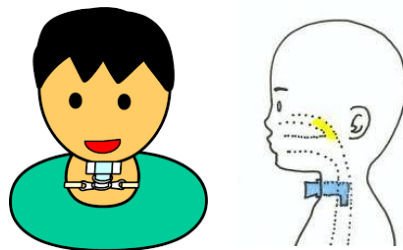
耳鼻咽喉科 光澤 博昭

お子さんが日々生活する中で、呼吸を楽に行えるということは非常に大切なことです。

お子さんの中には、何らかの原因で呼吸が上手にできない方がいらっしゃいます。

『のどの作りが狭い』、『気管が弱い』など原因は様々です。これらの中には根本的な治療が難しい方も多いのが現状です。呼吸を安定に楽にできるようになるよう、気管切開という手術が必要となる方もいらっしゃいます。

気管切開は、のどぼとけの下に皮膚に小指の先ほどの小さな穴をあけて、カニューレという呼吸するためのくたを入れる手術です。手術後は呼吸が楽になり本人も元気になりますが、カニューレの管理や声が出せなくなるなどの欠点もあります。



お子さんが成長し呼吸状態が安定してくればカニューレを抜いて、あけた穴を塞ぐこともできます。

しかし、年単位の時間を要する方がほとんどです。手術したあとは呼吸が楽になりますが、本人、ご家族とも生活スタイルが大きくかわることになります。手術が必要な方には、主治医より手術の内容について詳しく説明したうえで、ご家族に了解をいただいた上で手術を実施しています。

また、誤嚥といって食べ物や唾液が気管の中に間違っに入ってしまい肺炎と繰り返すことにより入退院を繰り返したり、体調がすぐれなくなる方もいらっしゃいます。このような方の場合、誤嚥をなくするために喉頭気管分離術をすすめさせていただく方もいらっしゃいます。

この手術を行うと、誤嚥が全くなくなり呼吸も楽になりますが、声が出なくなるなど欠点もあります。気管切開の場合同様、手術を行う前に十分にその内容、利点、欠点についてご説明させていただいた上で手術を行っています。呼吸が上手にできていないと思われる方や、以前に気管切開や喉頭気管分離をすすめられたことがある方がいらっしゃいましたら、お気軽に耳鼻咽喉科医師または主治医、病院スタッフにご相談ください。

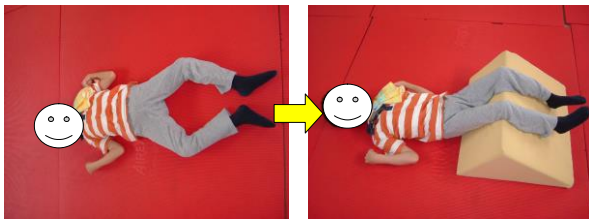
【健やかな身体づくりを目指して～ 家庭でできる姿勢ケア～】

リハビリテーション課 理学療法士 井上 和広

身体に重い障がいを持つお子さんは、筋肉・関節の固さや姿勢保持の難しさがあり、呼吸をすること、食べること、リラックスして色々な姿勢で過ごすことなど困難な場面が多くあります。健やかな身体作りを目指すためには、①1日のうちにリラックスして3～5つの姿勢で過ごすこと、②身体の色々な部分で体重を支えていくこと、③身体の柔軟性を維持することが大切です。

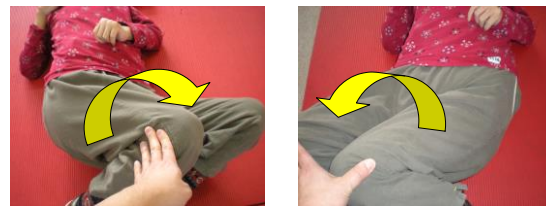
以下にご家庭でできる簡単な姿勢ケアの一例を挙げますので、ご参考にして頂ければと思います。

仰向け姿勢での工夫



膝下に三角クッションを入れるだけで、リラックスした姿勢を経験でき、股関節の脱臼や側弯予防、手足の筋肉、腹筋などが働きやすくなるのが期待できます。呼吸が楽にできない子どもたちにとって仰向け姿勢は喉の空気の通り道が狭くなるので、心地良い姿勢ではないかも知れません。その場合は横向きやうつ伏せをお勧めします。

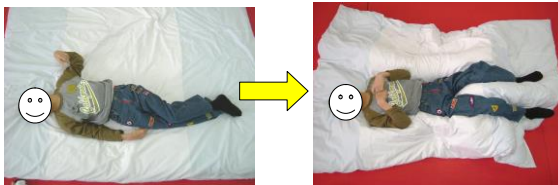
身体を捻る体操



足を曲げゆっくり左右に倒しながら、身体を捻ります。側弯の進行予防や便秘解消などの効果が期待できます。

対称的な姿勢で過ごしましょう！

～布団とクッションの姿勢ケア例～

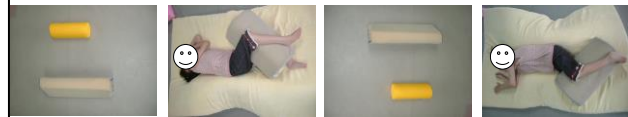


布団の下にクッションを入れることで対称的な姿勢に修正できます。股関節脱臼や非対称姿勢の予防に効果が期待できます。

低反発マットでの姿勢ケアの一例



対称的な仰向け姿勢とうつ伏せ姿勢

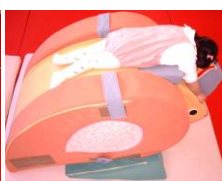


左右の側臥位姿勢

バードチェア（プロンキーパー）



器具を使った姿勢ケアの一例です。お座りやうつ伏せが比較的安心、安全に経験でき、食べる機能や呼吸機能の状態に合わせて角度変化をつけて使用することも可能です。



うつ伏せ保持具の一例



身体の緊張が強く反り返りが見られるケースに対する姿勢ケアの一例です。うつ伏せ保持具と三角クッションを組み合わせることで角度を変えて膝立ち様の姿勢でリラックスすることが可能です。

背中側に痰が溜まっている場合などはうつ伏せで頭を少し低くしていることで、痰が口元まで移動してくることを期待できます。

